

## 第13回地域密着型サービス 運営推進会議 報告書

施設名：ゆうなぎ 九十九里

施設種類：グループホーム

日時：平成 21年6月13日（土） 13時30分～14時30分

会場：当ホームのリビングダイニングにて

出席者 (人数)	利用者代表	3人	有識者	0人
	利用者家族	1人	町当局職員	1人
	地域住民の代表	1人		
	その他（ ）			0人

当ホーム

代表者 代表取締役 筒井 将之

所長 小川 功一

管理者（ホーム長：当社職制）並木 勝利

主任（当社職制）澤舘 宗宙

前回の会議から今回の会議に至るまでの活動・行事の報告（並木・澤舘より4月から6月分のゆうなぎかわら版の発表）

平成21年4月号（3月の様子）

- ・ 昨年同様、山武市にある小出イチゴ園に出かけたことを説明する。このイチゴ園ではハウスの中で車椅子が使用することが配慮されており、かがむことなくイチゴを収穫できるため、歩行が困難な入居者様も楽しむことができた。
- ・ 国民宿舎サンライズ九十九里においては、例年、雛人形を盛大に飾り付けるので、この様子を観に行った。
- ・ 桜の開花状況の現地確認を兼ねて外出し、その帰りに外食に行った。
- ・ 入居者様の誕生日会の様子の写真。手作りのケーキと洋服をプレゼントした。

平成21年5月号（4月の様子）

- ・ 桜で有名な東金市にある八鶴湖に出かけた。桜が満開ですばらしい景色ではあったが、混雑しており、駐車スペースも無かったため、場所を変更した。

- ・ よく行く散歩コースである宮島池公園にて持参した弁当を広げ、昼食とした。
- ・ 白子町のチューリップ祭りに出かけた。
- ・ 入居者様の希望にて、当ホームの近所でセリが自生する所があり、採取に行った。夕食にはセリをお吸い物にして食した。

4月30日に実施した避難訓練の様子。当ホームを所轄する山武郡市広域行政組合消防本部九十九里分署の協力のもと、実施した。当日は、消防職員並びに消防車両の臨場、資機材までご用意いただき感謝している。

今回の避難訓練の想定は、1. 台所の鍋から出火した、2. 入居者様は全員リビングに所在していたとして、訓練を実施した。当日参加した役職員各位の事前のとおりに行えた。入居者様が全員避難完了するまでに5～10分程度で円滑に避難することができた。補足として、当ホームでは初めての避難訓練で、施設での避難訓練が初めての職員もいることから、時間帯は職員が多い日中（昼間）の時間帯に設定した。次回は夜間を想定し、あえて職員配置が手薄な時間帯を想定しての訓練を考えている。

当日避難訓練に参加した職員に限るが、訓練用の水がでる消火器を使用し、消防職員の、お手ずからご指導いただいた。避難訓練は今年中にもう1回予定しており、今回参加出来なかった職員を優先して参加させたい。

平成21年6月号（5月の様子）

- ・ 新型インフルエンザの影響もあり、各地でマスクの入手が困難になっていると言われていたが、当ホームではマスクを十分に確保してあるので、通院時は入居者・職員共にマスクを使用するなどして予防を心掛けている。今のところ大きく体調を崩す方は居ない。
- ・ ボランティアの方が来てくださり、わらべ歌や歌に合わせてできる体操などを入居者様と行ってくださる。参加された入居者様も「とても良かった。自分の息子の小さいときを思い出すようで泣けてきた。」など話してくださった。
- ・ 当ホームでは毎年恒例になっている白子町の玉ねぎ祭りの様子を説明する。入居者の方の中には農家をやっていた方も何人か居り、視力の弱い入居者様も上手に玉ねぎを収穫する姿が見られ驚きを禁じ得ない。

今後の予定行事

- ・ 6月中にアジサイ見学：アジサイが咲いている場所として散見されるのが、坂が多い・トイレがない・道が細いなどの問題があるが、候補として栗山川の堤、茂原市の服部農園、千葉市若葉区の泉自然公園などを考えている。あわせて、インフルエンザの問題もあるが、警戒しすぎて外出を控えるのは精神的・身体的にも良くないので、慎重に外出の機会を増やしていけるよう努めたいとおもっている。
- ・ 7月22日には、真亀の海岸（サンライズ九十九里の下）で地引網体験が出来るようなので天気が良ければ参加したい。

- ・ 先の話にはなるが、10月頃には家族会を兼ねたバーベキュー会の開催を予定している。同時期には1年に1回行わなければならない外部評価もあるので、準備も進めて行きたい。

活動・行事の報告が終わり筒井から話がある。

- ① 新型インフルエンザについて
  - ② 入居者の飲酒について
  - ③ 4月17日の入居者の所在を見失ったことについて（当ホームにて入居者が外出した事に職員が気づかない状況）について
- ① 新型インフルエンザについて

（筒井）足元で一番心配なのは、インフルエンザである。しかし、警戒しすぎても外には出られないので、方法としてはマスクを使用し、手洗いやうがいを徹底し予防していくしかないのではないかな。

（一同）異議なく了解。

（筒井）ゆうなぎかわら版6月号に「マスクを十分に確保してある。」とあるが、インフルエンザの性質上、亜種などの変化により突然に毒性が強まったりすることもある。そういう報道がなされた時に当ホームではどう対処するかと言うのも考えなければならぬ。

（小川）当ホームの独自の方法であったり、厚生労働省や役場のご指示を受けながらのことになるだろう。

- ② 入居者の飲酒について

（筒井）飲酒の話になるが、差し支えなければよいと思うのだがどうか。

（並木）入居者様の中には飲みたいと思っている人もいるかも知れない。2年位前の家族会を行う際、一応、各入居者様の主治医からは飲酒の了解は得ている。

（筒井）なぜこういうことを聞くかというと、平成20年の話になるがグループホームの開設者が3日間他の施設に研修に行くという「開設者研修」に行った際のことだが、夜、一杯付けてくれと言う利用者様に対してはアルコールを提供している施設があった。もちろん、どの施設も医師の了解は得なければならぬとは述べていたが、生活の質を上げるという意味でどうなのか。

（近隣住民）私の親戚も施設に居たが、パーティー等の時は飲んでいたと思う。

（並木）自分の立場で考えると飲酒する生活は続けたいと思う。

（小川）でもこれはすごく難しい話で、今の場合、入居者様と職員の話しかしてない。もうひとつ家族というものがあり、私の経験上、家族はだいたい「そこまでやらなくてもいい」と金銭的な都合でいらぬという。そういう経験があったから家族会とお正月の時だけということにしている。飲酒にかかわらず喫煙や

ギャンブルなども同様である。我々がどこまでやるのか、ただやるだけで介護者の満足だけになってはいけないし難しい問題である。他にも問題があるだろうしもう少し掘り下げた話が必要だから、今すぐに「いいですよ。」とは言えない。

(町当局職員) 私も施設で働いていた経験があるからわかる。嗜好品については、集団生活という場では難しい。みんなで話し合い、和ませて出来るようになれば一番良いけども、なかなか。クオリティを高めるという意味では大変良いことだと思う。

(家族) アルコール依存症の方などが入所することもあるだろうし、施設自体で最初から飲酒を許可するとは決められないですね。

(一同) 異議なく了解。

③ 4月17日の入居者様の所在を見失ったことについて (当ホームにて入居者が外出した事に職員が気づかない状況) について

(筒井) 前回の会議から今回の会議に至るまでに、重大な事案が起きている。概略を説明すると、昨年、夜間0時頃入居者様が離所された事例があり、4月17日この時と同じ入居者様が15時頃みやもと理容さんの前にいるのを発見した。

(近隣住民) みやもとさんの犬は吠えたでしょう。

(筒井) そうなのだ。その入居者様は犬が好きなのだ。

(並木) 見失っていたのは5分程だが、発見するまでの間は何をしていたかわからない状況である。職員が気付いた際、みやもと理容さんの前ではなく、入り口の門扉の前である。したがって、道路を渡ったかは不明。外へ出られたと思われる場所は、洗濯物を干すウッドデッキの出入り口と思われ、その窓には開けた際に音が鳴るセンサーが付いている。そのときの職員配置は、

早番・・・入居者様のリハビリのため、その入居者様の居室にいた。

日勤・・・トイレ介助中。

遅番・・・トイレ介助中。

日勤者と遅番者がトイレ介助に入っていたので、職員同士が声掛けし、早番者がリハビリを一時中断し、リビングにて見守りしていれば、防げる事故だと思う。

この件に関しては、その後のケア会議にて、全職員で話し合い、

- ・センサー音には注意し、センサーが鳴った際には必ず確認する。

- ・リビングから離れる際には、必ず他の職員に声をかけ、必ずリビングに見守りする職員を配置する。

以上の2点を今後徹底して行くことを話し合った。

(筒井) 2棟目の件もあり、このような事案の発生は、近隣の方々からご理解が得られないだろう。2棟目建設を前提とした近隣説明会など開き、よりいっそう御理解を頂いた上で行いたい。

(家族) 開かれている施設というのが良いところだと思うので、できればしっかり門を閉めたりして欲しくない。他の方法で工夫していただきたいと思う。

次回の会議の日程を9月12日(土) 13時30分からとし了解を得られたため、終了した。

本件のお問い合わせ先  
グループホームゆうなぎ九十九里  
管理者兼ホーム長 並木 勝利  
電話 0475-70-7333